



## 校長室より

この度、校長として赴任いたしました秋月弘司あきづはこうじです。よろしく申し上げます。

### ■そうだったのか～「『参加する』の意味は『役割を担う』こと』だった～

本校に赴任して1か月、新たな出会いや発見があり喜びを感じる事が多くありました。中でも嬉しかったのは、生徒会が自ら進んで「あいさつ運動」を始めてくれたことです。気持ちのいい挨拶を交わしてその日を始められることは、心地よいことです。同時にある言葉を思い出しました。

古い話ですが、1964(昭和39)年、東京オリンピックが開催されました。当時私は4歳だったので、白黒テレビで見たオリンピックの記憶が微かに残っています。その後、小学生になり、学校でも家でもよく聞かされたのが「オリンピックは勝つことではなく、参加することに意義がある」という言葉です。

運動会が近づくと、走りが苦手だった私は「嫌だなあ」という気持ちになりましたが、そんな時、親や先生から「運動会も勝つことではなく、参加することに意義があるんだ。一生懸命やればいいんだ。」と諭されました。当時の自分にはあまりしっくりこない言葉でした。しっくりこなかったのは、「参加する」を「とりあえずそこにいればいいんだ」と解釈していたことに原因があったのだと思います。

しかし、二十歳を過ぎてすぐ、ある大学教授の文章が目にとまり考えが変わりました。そこには次のようなことが書かれていました。

「(オリンピックは)勝つことではなく、参加することに意義がある」の英文は“not to win, but to take part”である。“to take part”は「参加する」と訳されているが、「役割を担うこと」が本来の意味である。直訳すれば「勝つことではなく、役割を担うこと」となり、これは近代民主社会の根本精神である。

「そうだったのか」腑に落ちました。

選手や監督、運営に携わる人々、ボランティアやサポーター、メディアやスポンサー等々、それぞれの立場の人々が役割を担い役割を果たすことでオリンピックが成り立っています。家庭や社会、私たちの実道高校も然りです。

ともすれば、家庭でも学校でも社会でも「担わされる」ことが多いように思えますが、「嫌なこと・面倒なこと」と感じて逃げてしまうと、そのことに追いかけるのが世の常です。誰かに「担わされた」とせず、自ら「担う」ことが大切なのです。楽しみややりがいを見つけると成し遂げた後の達成感や爽快感は格別ですし、自信や信頼につながります。

今後も生徒と教職員が一緒になって、それぞれの役割を担いながら、さらに素敵な学校をめざしたいと思います。“to take part”の精神で日々の学校生活から。

冒頭紹介した生徒会の主体的な取組に改めて敬意と感謝を表します。素晴らしい。嬉しい。ありがとう。

## 編 | 集 | 後 | 記

新入生の皆さん、入学式からそろそろ一ヶ月が経とうとしていますが新しい環境での生活に慣れましたか？連休も終わり、そろそろ『5月病』という言葉がちらほら…。皆さんの耳にもこの言葉が届いていますか？緊張やストレスが続くと5月病になりやすいとか。スポーツや音楽、読書など自分に合ったストレス解消法を見つけリフレッシュすることが予防につながるようです。心身ともに健康でこの一年を乗り切りたいものですね。